

No. 328【2018年10月19日配信】

ジュゼッペ・ファブリの命日 (担当:工藤)

こんにちは！ 室長の工藤です。

今年の春、油川地区の象徴的な建物であるといってもいい「イタリア館」が解体されました。イタリア館は、フランコ・イタリアン缶詰会社の工場事務所兼住宅で、その工場を任されていたのがジュゼッペ・ファブリという人物でした。

ファブリは今からちょうど100年前、大正7年(1918)7月に油川の地で亡くなりました。ただ、亡くなった日付がはっきりしていないのです。私の調べたところでは、7月4日とする説と7月2日とする説があります。また、7月2日に亡くなって、4日に埋葬したという話も聞き及んでいます。



明誓寺にあるファブリの墓と顕彰碑

7月4日説は、昭和3年(1928)発刊の西田源蔵『油川町誌』をはじめ、油川の歴史を綴った書籍のなかに見られる、いわば古典的通説です。一方、7月2日説は、明誓寺にある彼のお墓の隣に平成9年(1997)10月に建てられた顕彰碑と、少なくとも平成2年8月16日以降に改められたと思われる墓標に刻まれた、新しい説といっていいいでしょう。

『東奥日報』大正7年7月3日付朝刊では、2日にファブリが人事不省に陥っていることを報じていますが、その後のようすが分かりません。また、野中武祉『津軽の異人』(北の街社 1980年)では7月4日に彼が「癌疾」で亡くなったと「地方新聞」が報じたと記しています。この記事を見つけられれば、7月4日説が裏付けられるのですが、私が『東奥日報』を繰った範囲からは検出できませんでした。ほかの新聞も含め、もう少し調べてみる必要があるでしょう。ちなみに、『津軽の異人』のあとがきによれば、この本は事実に基づいているのが7割で、残り3割はフィクションなのだそうです。

一方、7月2日説については、彼のお墓の下方に刻まれた、10年忌の際の西田林八郎による追悼文があるものの、「此年七[ ]歿」とちょうど日付に相当する部分が読めないのです。ところが、『東奥日報』昭和2年7月11日付朝刊にこの追悼文の全文が掲載されていたことが判明したのです。それによれば、「此年七月二日病歿」とあります。しかも、西田はファブリを看取った人物であると記事は伝えます。傍証とはいえ、目下のところは7月2日説の有力な根拠といっていいいでしょう。

地域の歴史事象を後世に伝えていくには、事柄を説明するための客観的な根拠も同時に伝えていく必要があると考えています。それが無いがために、青森市の歴史叙述においては、歴史的事実ともフィクションとも判別できないような「歴史像」が語り継がれることがしばしばあります。「ファブリの命日」はまさにそんな事例のひとつといえるのです。